

Workday®の一般的なベストプラクティス

WalkMeは、Workday®の一般的なプロセスのサポートとステップバイステップのガイダンスを提供します。WalkMeを使用して分かりにくい部分を明確にし、レポートの精度を高め、時間とコストを削減します。

有効な機能

これは、お客様が利用できる有効な機能です。アクセスについては、カスタマーサクセスマネージャーまたは[サポートまでお問い合わせください](#)。

免責事項 Workday®の商標および製品名は、Workday®, Inc.の所有物です。WalkMeはWorkday®, Inc.とは提携していません。Workday®, Inc.は、WalkMeの製品、またはウェブサイトをサポートまたは推奨するものではありません。

ショートバージョン

WalkMeはWorkday®のオンライン体験を簡素化するために使用されています。WalkMeは、ゴールの設定、パフォーマンスレビュー、職務要件の作成などのタスクを支援します。ユーザーはWorkday®を限定的にしか使用しないことが多いため、プロセスを完了する方法を忘れてしまい、結果的にサポートコールにつながります。適切なトレーニングを受けたユーザーでさえ、実際にプロセスを実行するときにはプロセスの完了方法を忘れてしまうことがよくあります。また、Workday®のフィールドは分かりにくいことがあるため、コストのかかるエラーや時間のかかるデータ入力が発生することがあります。

WalkMeは、タイムリーで効果的なサポートを提供することで、これらの問題を解決することができます。この記事で紹介するシンプルなベストプラクティスを使えば、最高の結果を得ることができます。

使用方法

Workday®はシングルページアプリケーションであり、URLは異なるページで予測可能な方法で変わることはありません。Workday®のホームページはワークレットに分割され、さまざまなプロセスにジャンプすることができます。ワークレットはユーザーごとにカスタマイズできますが、特定のユーザーグループにしか存在しないものもあります。

また、Workday®は頻繁に更新されるため、予期せぬ動作をすることがあります。WalkMeでは、Workday®に最適化されたカスタムバージョンのソフトウェアをご用意しています。このバージョンには、お客様のサイトでWalkMeのパフォーマンスを最適化するためのWorkday®の特別な機能が含まれています。WalkMeは、スマートウォークスルーが正しく再生されているかどうかを定期的に確認します。異常な動作が見つかった場合は、お客様と一緒に問題解決に向けて積極的に取り組みます。

Workday®のレイアウト

Workday®はホームページ、その他のページ、サブページ、フォームで構成されています。ウォークスルーは、ホームページから開始するのが一般的ですが、ワークレットからスタートすることもあり、それぞれにページがあります。

ユーザーはこれらのどの場所からでもプロセスを開始できます。スタートポイント、複数のスタートポイントに対応することができます。これらのスタートポイントは、以下のWorkday®特有のルールで設定することができます。

場合によっては、ワークレットからタスクにアクセスできないこともあります。この場合、タスクを完了するためには、ユーザーを検索ボックスに誘導する必要があります。ユーザーが検索を行う際、Workday®が提供するドロップダウン式の自動入力メニューを使用して、サブページに直接移動することができます。しかし、ユーザーがSearch(検索) (またはキーボードのエンターキー) を押すと、検索結果のページにリダイレクトされます。

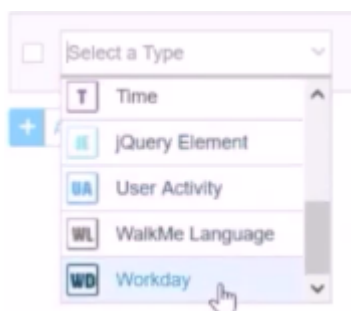
Workday®のプロセスを開始する方法は主に3つあります。

- ホームページから
 - ほとんどのユーザーはこのページからスマートウォークスルーを開始します。
- Search Box(検索ボックス) から
- Inbox(インボックス) から

ホームページからウォークスルーを構築する方が簡単なので、プロセスを開始するにあたりInbox(インボックス)を使用しないことをお勧めします。四半期の初めや終わりにタイミングよくシャウトアウトを表示させることで、スタッフがホームページからすぐにパフォーマンスレビューのプロセスを完了できるようにすることができます。

Workday® Rule Engine(ルールエンジン)

WalkMe for Workday®では、ユーザーはWorkday®固有のルールタイプにアクセスできます。これらのルールは、ユーザーの位置情報を確認するために変数を使用するように設定されており、スタートポイント、ゴール、セグメンテーションで使用する必要があります。



- **Page(ページ)** : ワークレットとも呼ばれ、ユーザーがページに存在しているかどうかを検出します。現在値フィルターを使用して、現在表示しているページの情報を読み込みます。このルール

タイプは、常にサブページのルールと組み合わせて使用する必要があります。2つのルールをANDでつなぎます。

- **Subpage（サブページ）**：ページからは、さまざまなサブページにアクセスできます。また、各サブページは固有の変数を有しています。サブページが存在しない場合は、演算子「Does not Exist」を使用します。このルールタイプは、常にページのルールと組み合わせて使用する必要があります。2つのルールをANDでつなぎます。
- **Form（フォーム）**：WalkMeの特別なWorkday®ルールタイプを使用すると、ユーザーがフォームにいるかどうかを簡単に判断し、そのフォームの名前を特定することができます。

注：ページ、サブページ、フォームの場合、[自動選択（虫眼鏡）] アイコンをクリックすると、ルールの作成中に現在表示されているページまたはサブページが表示されます。

Workday®のSegmentation（セグメンテーション）

すべてのWorkday®ワークレットをすべてのユーザーが利用できるわけではありません。例えば、マネージャーのみが「マイチーム」ワークレットを持ち、そのワークレットを持つユーザーにのみ、そのワークレットに関連するアイテムが表示されます。WalkMeには、ワークレットが利用できるかどうかに基づいてWalkMeのアイテムをセグメント化することができる変数があります。

まず、ワークレットのIDを確認する必要があります。ルールエンジンで [User Data Rule Type（ユーザーデータのルールタイプ）] を選択します。次に、[Variable（変数）] を選択します。テキストボックスに次のように入力します `walkMeWorkday.segmentation.walkMeWorkday.segmentation.worklets` 変数の最後にワークレットIDを追加して、特定のワークレットを識別できるようにします。その後、[Exists（存在）] を選択します。



ベストプラクティス

Workday®のウォークスルー

お客様は、単純なウォークスルーであれば、それを完了する可能性が高くなります。簡潔なウォークスルーは構築と維持が容易です。ベストプラクティスとしては、以下を含めることです。

- 簡潔にします。コアのステップ数は5未満をお勧めします。
- スタートポイントを追加して、ユーザーがどのページからでも開始できるようにします。
- ユーザーが [Home（ホーム）] をクリックすることで、別のワークレットから完全に開始できるようなナビゲーションのステップを必ず含めるようにします。
 - このステップは、ユーザーがホームページ上にいない場合にのみ表示するようにします。

お客様がWorkday®でシンプルなプロセスを構築する方法を学び、業務の維持 更新を容易にすることが重要です。

スマートチップを使用してユーザーがフォームに入力するのを支援する

スマートチップはユーザーに追加のコンテキスト情報を提供する高度なツールチップです。個々のスマートチップはセット内に作成されます。これは通常、同じフォームまたはページに表示されるスマートチップのグループになります。スマートチップは、ウォークスルーの代わりに、またはウォークスルーと同時に使用することができます。スマートチップによるヒントは問題のあるフォームに対処するだけでなく、入力された情報を検証する方法を提供するのにも理想的です。

Workday®のルールエンジン（ルールエンジン）

WalkMeにはWorkday®用の特別なルールタイプがあり、変数を使ってページとサブページを識別することができます。現在値フィルターを使って、ページまたはサブページ変数を自動的に埋めます。

Workday®ではPrecision（精度）で [Identify by Text（テキストで識別）] の使用は避けます。WalkMeは、エレメントを識別するのに画面上の文字は使いません。ルールでテキストを識別しようする場合、必ず [On Screen Element（画面上のエレメント）-Text Is/Text is not（テキストが...である/テキストが...でない）] を使用するようにします。

エレメントの選択

Workday®のエレメントの中には一般的なものもありWalkMeは間違ったエレメントを指してしまう可能性があります。エレメントグレードが3本以下の場合は、エレメントの再選択ボタンを使って、より良いオプションを見つけてください。

エラー防止作業による負担の回避

Workday®にはエラー防止システムが組み込まれているので作業負担を軽減できます！

テストの繰り返し

構築したものをすべてをテストし安定して動作することを確認してください。ウォークスルーを異なるページやフォームから再生して、再生されるべきでないページで誤って再生されないかどうかを確認してください。

Workday®のトラブルシューティング

スマートチップ

スマートチップがWorkday®上の設定した場所に表示されない場合は、おそらくセグメンテーションまたは表示ルールの一部を削除する必要があります。問題を解決するために、以下の推奨事項を試してみてください。1つまたは2つのスマートチップ（セット全体ではなく）だけが欠けている場合は、エレメントを再選択するか、別のエレメントの近くに配置してみてください。

セット全体が表示されない場合は、以下をお試しください。

1. スマートチップを表示するページに移動します。
2. スマートチップの [Segmentation Settings（セグメンテーション設定）] を開きます

1. trueとして表示されていないルールを探します
2. これらのエントリが正しいことを確認します
3. ワークレット、検索ページ、または受信トレイからアクセスできる可能性のある場所にスマートチップを配置する場合は、ページ変数を削除してみてください。
 - 該当する場合は、そのままサブページとフォームを残すようにします。

スマートチップが表示されるべきでない場所に表示されている場合は、セグメンテーションまたは変数を追加して指定する必要があります。

1. ページ変数がまだない場合は、ページ変数を追加してみてください。
2. サブページ変数がまだない場合は、サブページ変数を追加してみてください。
3. サブページ変数が選択できない場合は、演算子を「does not exist」に変更します。
4. フォーム上でスマートチップを使用している場合は、フォーム変数を追加してみてください。